



1 はじめに

本日、「**ふくしま小学校外国語教育推進プラン（確定版）**」をお示しいたしました。学習指導要領の改訂に伴う小学校外国語教育の早期化・教科化に対応するために、福島県教育委員会が各小学校及び各市町村教育委員会を支援する具体的方策をまとめたものです。今が日本の外国語教育において、大きな変革の時であることは間違いありません。様々な意味で予測困難な時代に生きる子どもたちが、必要な資質・能力を身に付けるため、力を合わせ前へ進んでいきましょう。なお、平成30年度予算の確定により、昨年末にお示ししたものより具体的な情報を記載いたしました。また、別紙「**ふくしま小学校外国語教育推進プラン～具体的な内容～**」も、併せてお読みください。

2 小学校外国語の新教材「We Can!」の「Small Talk」について

（小学校外国語活動・外国語研修ガイドブックより抜粋及び一部改）

「Small Talk」とは、高学年新教材「We Can!」で設定されている活動です。2時間に1回程度、帯活動で、あるテーマのもと、指導者のまとめた話を聞いたり、ペアで自分の考えや気持ちを伝え合ったりすることです。5年生は指導者の話を聞くことを中心に、6年生はペアで伝え合うことを中心に行います。

「Small Talk」を行う主な目的は、（1）既習表現を繰り返し使用してその定着を図ること、（2）対話を続けるための基本的な表現の定着を図ることの2点です。

（1）既習表現を繰り返し使用してその定着を図る

これまでの外国語活動においては、児童が単元の新出言語材料に慣れ親しむことに重点が置かれていた一方で、複数単元を通じた系統性が弱く、言語材料の使用が単元ごとで完結している場合が少なくありませんでした。新小学校学習指導要領に基づく外国語科の指導においては、言語材料の定着にも重点が置かれています。したがって、児童が現在学習している単元及び当該単元より前の単元で学習した言語材料を繰り返し使用する機会を保障し、当該言語材料の一層の定着を目指すことが求められています。

（2）対話を続けるための基本的な表現の定着を図る

「話すこと」によるコミュニケーションを行う際に欠かせないことが「対話を続けるための基本的な表現」です。我々が母語で対話をする際にも、相手の話した言葉を繰り返して話し手が伝えたい内容を確認めたり、相手の話したことに何らかの反応を示したりすることで対話は続くものです。

「Small Talk」を行う際は、誰かになりきって話したり、役を演じて擬似的な対話をしたりするのではなく、指導者や児童が自分自身に関する本当の出来事や気持ちなどについてやり取りすることが大切です。そのような表現内容の授受を楽しむ中で、児童が既習表現を想起できるような指導・援助を行い、既習表現や対話を続けるための基本的な表現の定着を図ることを大切にしたいものです。

なお、このような実践は、実は中学校の英語科担当の先生方は、常日頃より取り組んでいる活動です。小学校の先生方は、実践例やこつなど、同じ学区の中学校の英語科担当の先生方に聞いてみると参考になります。こういった意味においても、積極的に小中連携に取り組むことの意義と重要性が見えてきます。

Q10：新中学校学習指導要領の「即興」について教えてください。

新中学校学習指導要領の中でも、一際目を引く言葉が「即興」です。「即興って、どういうことですか?」「即興の定義って、何ですか?」「即興って、どのように指導すればよいですか?」という質問をよく受けます。新中学校学習指導要領解説 外国語編 21 ページを見てみましょう。以下のようにまとめられています。

～実際のコミュニケーションの場面においては、情報や考えなどを送り手と受け手が即座にやり取りすることが多く、英文を頭の中で組み立てる時間が長く取れない～

～「即興で伝え合う」とは、話すための原稿を事前に用意してその内容を覚えたり、話せるように練習したりするなどの準備時間を取ることなく、不適切な間を置かずに相手と事実や意見、気持ちなどを伝え合うことである。～

～なお、小学校の外国語科の「話すこと [やり取り]」の目標ウには「その場で質問したり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする」という内容が含まれており、「その場で」について、「小学校学習指導要領 外国語編」では、「相手とのやり取りの際、それまでの学習や経験で蓄積した英語での話す力・聞く力を駆使して、自分の力で質問したり、答えたりすることができるようになることを目指している」とした上で、「ここでのやり取りが、中学校の外国語科での簡単な語句や文を用いて即興で話すことへとつながっていく」と中学校への接続に言及していることにも留意が必要である。～

実際のコミュニケーションの場面においては、私たちが母語を用いる時に感じるように、そのほとんどは即興でのやり取りとなります。外国語を使いこなすために、子どもたちに是非身に付けてほしい力です。

即興で ⇒ 準備時間を取ることなく + 不適切な間を置かずに

小学校外国語科の「その場で」からのつながり

即興的 (impromptu) なやり取りの実践は、県内各地で行われるようになってきました。例えば、今年度の「福島県中学校教育研究協議会会津大会」での研究授業や、「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業(文部科学省研究指定)」での福島市立渡利中学校で実施された研究授業でも、これに関する研究実践がありました。

即興的な力は、一朝一夕に身に付くわけではありません。単元計画や年間計画を広い視野で長期的に捉え、計画的・継続的に取り組むべき事項です。毎時間の授業の帯活動の時間に即興的な chat (おしゃべり) として、実践を継続させている学校も増えてきています。はじめの内は、正確性 (accuracy) よりも流暢性 (fluency) を重視し、間違いを許容するあたたかい雰囲気の中で、じっくりと即興的な力を育てていきたいものです。その後、正確性 (accuracy) にも留意し、正確性 (accuracy) と流暢性 (fluency) を両立させましょう。

「即興性」は長期的・計画的・継続的に育成します

正確性 (accuracy)

≡
≦
≧
≪
≫

流暢性 (fluency)